



国道362号
 「(仮称)青部トンネル」
 ▼トンネル総延長:324㍎
 ▼供用開始予定:平成30年3月



青部バイパス全線開通へ向けて 国道362号「(仮称)青部トンネル」 掘削工事始まる

写真(右)町内幼稚園・保育園児らによる工事関係者への応援ボード(中央)掘削工事が始まった青部側のトンネル入口(右下)起工式で式辞を述べる鈴木町長(左下)迫力ある重機の下、勇壮な赤石太鼓が響く

鈴木町長は「青部バイパスの全区間開通は、地域住民の生活基盤として経済活動や安心安全な暮らしを支え、大井川流域の連携をさらに深める一助になるものと確信している。本町が文字通り一体化していくために必要なこの道路が、関係者の皆さまのご協力で無事に開通することを願います」と式辞を述べました。

10月3日、国道362号青部バイパス(仮称)青部トンネルの起工式が、青部区側のトンネル入口付近にて挙行されました。式典には鈴木町長をはじめ、県交通基盤部・村松部長や関係者約100人が出席しました。

工事の安全を祈願して
 起工式を挙行



固い岩盤も掘り進めることができる掘削機▶

バイパス工事概要

トンネルが開通することで バイパス全区間で供用開始に

藤川区から崎平区までの約3^{キロ}の区間は、普通車同士でもすれ違いが困難となる箇所が多く、日常生活の不便、観光シーズンの片側交互通行実施による渋滞を引き起こしています。

このため、県ではこの狭隘区間の解消を目的に、青部バイパスの整備を進めてきました。

平成15年に開通した青崎橋(青部区～崎平区)、平成26年に開通した藤沢橋(藤川区～青部区)に続き、「(仮称)青部トンネル」が開通することで、青部バイパスの全区間(1.7^{キロ})での供用が開始されることとなります。



寄せる期待

町内商工観光団体の会長に聞く



本町の商工業における目標として「旧町単位となっている商業圏の一体化」があげられますが、旧2町間の狭い道路は、この目標に対する大きな障壁となっているように感じています。

今後、青部バイパスが全線開通して両地域の相互アクセスが容易となることは、例えば「旧中川根町域の住民が旧日本川根町域の商店まで足を伸ばす」というように、町内の商業圏に一体化をもたらすための一助となるはずです。また両地域の商工業者同士の交流が、今まで以上に活発になることも期待しています。物流面では、安全かつ速やかな輸送が可能となるのが大きな利点となります。

青部バイパスが開通した暁としては、さらに国道362号「富士城バイパス」の一刻も早い完成と静岡市へのアクセス改善を強く望むところです。



現在、藤川区から崎平区までの区間は、町内を車で訪れる観光客にとっての難所となっています。

青部バイパスが開通すれば、普通車はもちろん大型の観光バスでもスムーズな通行が可能となります。観光業に携わる者として非常にありがたいことと思っていますが、同時に、観光業へのメリットを最大限に活かしていく工夫の必要性も実感しています。例えば、道路整備によって観光客の移動時間が短縮されますが、その時間を活用して町内での観光をより満喫してもらえるように、関係者で知恵を出し合い実行していくことが大切です。

町内には、観光客が不安を感じながら通行している区間がまだあります。引き続き各団体が一丸となって、そうした道路の早期整備への働きかけを続けていくことが重要だと考えています。

トンネル工事ががんばってね!



町内園児らが工事関係者を応援

起工式には、町内の幼稚園と保育園から園児70人も駆けつけ、トンネルの絵や「おしごとがんばってね」などのメッセージが書かれた手作り応援ボードを、工事関係者に手渡しました。

応援ボードを受け取った工事事務所の山下和也所長は「事務所内に飾り、毎日これを見ながら、無事に工事を進められるように頑張ります」と笑顔で感謝しました。